

学校名 熊谷市立三尻^{みしり}中学校
所在地 熊谷市三ヶ尻^{みかじり} 2743
電話 048-532-3657

1 本校の概要

一年生6クラス、二年生5クラス、三年生6クラス、特別支援学級2クラス、生徒数582名の熊谷市で二番目に大きな中学校である。今年度の重点目標に「文武両道」を掲げ、学習指導と部活動の充実を図ってきた。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・朝の読書タイムの設定
- ・図書室のレイアウトの充実
- ・図書集会の開催

(2) 実践の概要

ア (月)~(木)の8:20~8:35を朝読書の時間とし、全校生徒が読書をする時間を確保している。読む本は、毎日自分で用意している。学級文庫や図書室から借りたり、自分の本を持参したりしている。



イ 学校図書館補助員が週一回来校し、季節に合わせた飾り付けをしている。また、生徒が興味を持つような配架の工夫をしている。



ウ 前期に行われた図書集会では、図書委員からお薦めの本を紹介した。また、校内読書週間を設定し、本をたくさん借りた生徒を表彰し、併せて図書委員による手作りのしおりを配布した。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア もともと本好きな生徒、朝読書によって本に慣れた生徒は読書がどんどん進む。読書時間の個人差は出てしまっているが、朝読書を行うことによって、どの生徒も確実に読書量は増えている。

イ 図書室の整備を進め、カウンターの有効利用、生徒が興味を持つ本の展示ができるようになった。



ウ 図書委員の生徒が真摯に説明することで、図書室の使い方など改善してきている。

(2) 課題

ア 朝読書をしていなくてもなかなか本になじめない生徒への手立てを考える必要がある。「私のお薦めの本」等のスピーチを行うことで、新しい本との出会いをさらに広げていく。

イ 図書室設置のパソコンのよりよい使用方法を、現在検討中である。

ウ 今回の校内読書週間は前期と後期にまたがってしまったため、生徒が意識しにくかったことが反省点である。

(3) おわりに

本を読む生徒と読まない生徒では、触れる活字の量に差が出てしまう。図書室には、中学生にはかなり易しい本(絵本等)も多いが、それらのページをめくって「読書をした」と考えてしまう生徒に、読書のきっかけをつくる方法を考えていきたい。